

## 要望書（回答）

①苫小牧市では、重度障害者タクシー料金助成制度、福祉ハイヤー助成制度、市内路線バス無料乗車証交付制度があります。これに加え、7年前から自家用車による通院補助として、年額9,000円の支給を受けられるという選択肢が増えました。透析患者の自家用車に対する通院補助は、通院の多様性と実態に対応しているものであり、心より感謝申し上げます。苫小牧市福祉のまちづくり条例の第13条にて「市は、福祉のまちづくりに関する施策を推進するため、必要な財政上の措置を講じるよう努めるものとする。」とあります。自家用車の通院補助制度の維持に加え、最近特に、ガソリンの価格が高騰していることをふまえ、自家用車の通院補助額の適正化について再度、検討頂けますよう、お願い申し上げます。

【回答】（福祉部障がい福祉課 担当）

重度心身障害者通院交通費助成については、自家用車で定期的に通院をしている方を対象として平成27年度から行っており、現在も多くの方にご利用いただいていることから、引き続き制度の維持に努めていきたいと考えています。

補助額についてですが、現段階では利用者も安定的に推移していることなどから、今しばらくは現行の内容のまま実施していきたいと考えています。

②臓器移植は、透析患者が透析を逃れる唯一の手段です。北海道では今年度、568人の腎臓の移植希望者（臓器移植ネットワークの公表データ）が待機しています。今年に入ってから、10月までで3件の腎臓移植手術が実施されました。北海道での移植件数の推移をみると、移植医療は前進するどころか、むしろ、後退しているようにさえ思えます。この原因は、移植実施までの待機年数が平均20年以上とたいへん長いことが挙げられます。苫小牧腎友会では例年、港まつりにて、保険証や免許証の裏に明記された意思表示欄に意思表示の記載をお願いする声掛け活動を行っていましたが、今年は、新型コロナウイルスを考慮して、港まつりが中止となり、十分な活動ができない状態です。できるだけ多くの方に、臓器移植の現状を知って頂くには、たくさんの方が見る媒体で情報を提供することが重要です。そこで、市が出版する媒体において移植の現状について説明する内容の掲載を検討頂けますよう、お願いいたします。

【回答】（健康こども部健康支援課 担当）

臓器移植の普及啓発については、毎年10月の臓器移植普及月間に合わせて市役所の庁内放送で周知を図っているところです。今後については、広報とまこまいやフェイスブック、市公式LINE等を活用し、臓器移植の現状や重要性、臓器提供意思表示カード記入について、広く周知を図ってまいります。

③苫小牧市の福祉のまちづくり条例第11条には「市は、高齢者、障害者等に関し、災害時における安全性を確保するため必要な措置を講じるよう務めるものとする。」とあります。災害対策の一環として、災害時の要支援者の確認と名簿作成の活動をして頂いていることについて感謝申し上げます。要支援者を把握することは、災害対策の第一歩として意義があることで、今後もこの活動を継続して頂けるよう、お願い申し上げます。このことに関して、苫小牧腎友会がお役に立つことがあれば、協力は惜しまないつもりですので、宜しくお願い致します。さらに、名簿等が整った次の段階として、実際に災害が起きた際の要支援者への駆けつけ行動は、町内会の単位で行うのが現実的と考えられます。引き続き、居住地区や集合住宅の部屋単位での要援護者支援、避難誘導の役割分担について、具体的な訓練を実施して頂けますようお願い申し上げます。

私達の透析には、透析設備とスタッフ、透析機械を動かす電力を得るための予備の発電機に加え、1回の透析につき1人あたり120Lと、大量のきれいな水が必要です。

透析を行うには、これらの確保が必須です。さらに、透析施設が使用不能の状態を想定した対策として、苫小牧市と北海道透析医会と市域内だけでなく、市域を超えて施設側との事前協議や患者の受け入れ医療機関との打ち合わせが必要と思われます。

昨年度の要望書提出の際に、市内の透析施設の代表者による会議が行われたと聞きました。今年度の代表者会議の開催状況や、会議の結果について情報公開をして頂けますよう、お願い致します。

【回答】（市民生活部危機管理室 担当）

災害時の助け合いにつきましては、防災出前講座や訓練の機会を通じて、「共助」に係る考え方を町内会と共有するとともに、町内会や民生委員など地域のご協力のもと避難行動要支援者支援制度の推進に努めているところです。

さらに、今年度からは避難行動要支援者支援制度の強化を目的に社会福祉協議会及び地域包括支援センターと協働による取組も進めているところでございます。

また、要支援者支援に係る訓練につきましては、胆振東部地震の対応事例を紹介しつつ、より多くの地域で実効性のある訓練を実施していただけるよう引き続き働きかけてまいります。

(健康こども部健康支援課 担当)

透析連携ミーティングにつきまして、主催者側より腎友会様の御参加について了承を得ておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止しているところで

す。  
開催の折には、改めてお声掛けさせていただきます。

④現在まで治療法がなかった難病を自分の細胞を使って必要な臓器を再生する道を開いたiPS細胞に代表される再生医療は、難病の治療への扉を開こうとしています。8年前から全腎協、道腎協、苫小牧腎友会においてiPS細胞による再生医療への協力と推進を活動計画に入れ、希望を持って活動しております。全国に先駆け、全道の患者、家族、施設、協力団体の皆さんで、iPS細胞による再生医療への支援として、募金と研究者への励ましの手紙など患者それぞれの思いを届ける活動を行っております。

これは、研究の進捗をただ傍観しているのではなく、少しでも研究の後押しをしたいとの思いからです。そして、これらの医療の進歩が我々透析患者に生きる勇気を与えてくれますし、また、市民の皆さまにも関心を持ってもらうことで、病気を抱える患者の理解にもつながればと願っております。また、苫小牧に住む患者、市民の皆さまがお互いを理解しあい、共生、共存の出来る街、福祉の街づくりに役立つことを心から願っております。市民の皆さまが再生医療に関する情報に接する場を設けて頂けるような配慮をお願い致します。

【回答】 (健康こども部健康支援課 担当)

再生医療については、専門家による市民向けの講演会等の開催が有効と考えており、腎友会様から要望を受け、京都大学iPS細胞研究所【CiRA (サイラ)】へ講演依頼を継続的に行ってまいります。

コロナ禍の影響もあり、状況が見通せない中ではありますが、今後も再生医療講演会開催に向けて取り組んでまいりたいと考えております。